

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ごっこ遊び

<テーマの設定理由>

子どもたちは、日頃からままごとや見立て遊びに興味を持ち、友だちとのやり取りを楽しむ姿が見られている。身近な玩具や素材を使ったごっこ遊びを通して、子どもたちなりにイメージを膨らませたり、役になりきったりしながら表現する楽しさを味わってほしいという思いで考えた。また、友だちと同じ場面を共有する中で、言葉のやり取りや協力する気持ち、自分たちで考える力を育み、コミュニケーションの広がりにつなげていくことを目的とした。

2. 活動スケジュール

おままごとの時間を設けて、乳児クラス・幼児クラスで楽しんだ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【乳児】食器・食材・フライパンや鍋・食器棚・木のお家・コンロ

【幼児】食器・食材・フライパンや鍋・キッチンセット・冷蔵庫・電子レンジ・ピザ窯

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【乳児】 手作りのコンロにフライパンを乗せて炒めたり、お皿に食材を並べ保育者に「どうぞ」と渡したりしながらやり取りを楽しんだ。コップにジュースを注いだり、乾杯をしたりする姿が見られた。自分なりのイメージを膨らませながら繰り返し遊びを楽しんでいた。

【幼児】 友だちと役割を決めながらおままごとを楽しんでいた。「お母さん」「あかちゃん」「猫」などになりきり、子ども同士でイメージを共有しながら遊びを発展させていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

身近な大人の姿を真似しながら、言葉のやり取りやイメージを広げて楽しむ姿が見られた。友だちや保育者と関わる中で「どうぞ」「いただきます」などのやり取りを楽しみ、簡単な役割を持って遊ぶ姿も増えてきた。遊びの中で順番を決めたり、相手の思いを聞いたりしながら、友だちとの関わりを深めていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めは個々で遊ぶ姿が多かったが、次第に一緒に遊ぶ姿が見られ、自然とお互いに引き寄せられる気持ちを感じているようであった。言葉の掛け合いや役割分担を通して、協調性や表現力の育ちも感じられた。保育者も遊びに入りながら、やり取りを丁寧に見守っていきたい。遊びの中で使いたい物を自分たちで作ろうとする姿も見られ、創造力や主体性に繋がっていた。今後も子どもたちの発想を大切にしながら環境を整えていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

フォトスタジオごっこ

<テーマの設定理由>

年長児が主体となり、話し合いを重ねて「カメラを作りたい」とのことで「フォトスタジオごっこ」をやろうということになった。普段おままごとで着ている衣装などの他に、アイテムを揃えて行おうということになった。

2. 活動スケジュール

年長児が集まり何をやりたいか意見を出し合い細かい構成を保育者と一緒に考え形にしていった。カメラを作り期待感を高めていった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

フォトスタジオ・衣装や小物のアイテム・カメラ・チケット
※室内の半分をフォトスタジオに見立て雰囲気作りをした。写真を撮る順番を待つための椅子を用意したり学年別に楽しめるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「フォトスタジオごっこ」では、子どもたちと一緒にスタジオを作り、雰囲気を出せるようにした。衣装をたくさん用意して、年長児にはフォトスタジオの店員になってもらいお客さんに衣装を勧めたり撮影をしてカメラマンのように喜ぶ声掛けなどをして楽しんだ。実際に写真をプリントして子どもたちにあげた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

年長児が店員となり、年下児のお客さんに衣装を勧めてみたり、優しく声掛けする姿が見られた。衣装に着替える際も手伝ってあげたり着させてあげる年上児らしい姿がたくさん見られた。年下児は、衣装を着ることによって自分なりの表現を楽しんでいた。お互いの衣装を見ながら「かわいいね」「かっこいいね」などと認め合う気持ちを育てていた。カメラマンも役になりきり「かわいいですよ」「こっちはむいてください」「はい、わらって」などと声掛けし、ごっこ遊びを広げる様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは衣装や小物を身にまとうことによって役になりきり普段見られない表情をする子もいた。カメラマンの声掛けによって気分が上がったりと自然なやり取りが生まれ、ごっこ遊びの広がりが見られた。恥ずかしがっていた子も、友だちの姿を見ることで少しずつ参加できるようになり、自分なりに表現する楽しさを感じていた。活動を通して、創造力や表現力だけでなく、相手との関わりを楽しむ気持ちも育まれた。次回も主体的に遊びを深められるよう環境を整え、子どもたちと楽しんでいきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ドライブスルーごっこ

<テーマの設定理由>

年長児が話し合い「ドライブスルーがしたい」との意見があったので、保育者が話し合いに混じり「ドライブスルー」の話を子どもたちと繰り広げどんどんやりたいことが増え、イメージを膨らませていった。

2. 活動スケジュール

年長児が集まり何をやりたいか意見を出し合い細かい構成を保育者と一緒に考え形にしていった。各クラスでドライブスルーのお店や、ドリンク、レンタカー屋の車、などを分担して作っていった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

車・ガソリンスタンド・ドライブスルーの店・道路・信号機・洗車機・チケット、手作りのドリンクやホットドック等※幼児室の部屋をひとつの街にして設定した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもたちが話し合い、身近な経験の中で再現し、イメージを広げていった。また、役割分担や協力する楽しさを感じられるようにしていった。年下児はお客さんになることによって買い物のやり取りができるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

身近なお店や生活経験を遊びの中で再現し、実体験を思い出しながらやり取りを楽しむ姿が見られた。段ボールの車に乗り込むと楽しんでいる表情が伝わってきた。年上児がリードしながら接客し年下児が安心して遊べるやり取りを子ども同士で展開していた。子どもたちは保護者の行動をよく見ており、ガソリンスタンドでは、静電気防止の所を指さし、「ここを触ってください」などのやり取りをしていた。子どもたちの「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、見守りと必要な援助のバランスを意識して関わっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが自分の経験したことを思い出しながら、イメージを共有して遊びを広げていく姿が多く見られた。自分たちで考え、試し、工夫する姿から主体的な探究活動に繋がっていることを感じた。また、役割を通して会話が自然に増え、相手を意識したやり取りや協力する姿が見られた。特に年上児が年下児に優しく教えてあげる姿から、異年齢で関わる事の大切さも感じられた。今後も子どもの「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、遊びがさらに広がっていくよう関わっていきたい。